第９期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

保険者名	第９期介護保険事業計画に記載の内容				R6年度（年度末実績）		
	区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己評価	課題と対応策
新十津川町	①自立支援・介護予防・重度化防止	地域住民同士の関係性の希薄化などで高齢者の孤立化が進み、閉じこもりによる身体機能の低下が懸念される。	地域の通いの場を、各行政区ごとに定期的に開催します。	全行政区（11か所）	地域の通いの場は、感染予防に努めながら全行政区で週1回実施。 リハビリ健康教室は、各行政区で年４回実施した。	◎	コロナ前の参加実人数と比較すると少ない行政区があるのと、実際に介護予防教室に来てほしい人を取り込むことが課題。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者自身が心身機能を維持し、健康レベル向上の意識づけができるよう、生きがいづくりや地域で活躍できる機会の創出が必要である。	介護予防サポーターの養成による、高齢者自身の介護予防につながる活動を支援します。	各行政区 5名程度	サポーター養成講座を2回開催した。 講座を受けたサポーターは生活支援コーディネーターによる調整を受け、活動に参加した。	○	労働力人口の減少により、健康的な方は日中働いており、介護予防サポーターが高齢化になっているのが問題だが、地域の高齢者の生きがいの場が重要であるため事業は継続する。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	まちの面積が広く、地域により生活上の課題に違いが見られるため、地域ごとでの課題や必要とされる支援を整理し、支援に対する供給方法の検討が必要である。	生活支援コーディネーターによる、地域に不足するサービスや事業、ボランティア活動を確立します。	計画期間中に2事業以上	生活支援コーディネートとボランティアセンターが、各行政区のニーズを把握し、連絡調整、ボランティアの養成等を行った。	○	買い物支援、交通支援、通いの場に行けない人への支援。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	認知症があっても安心して生活ができるように、認知症とのかかわり方をはじめとする正しい知識を普及することが必要である。	認知症ケアパスを配布し、認知症に関する住民の知識の向上を図り、認知症サポーターのステップアップ講座を開催してチームオレンジを立ち上げます。	令和6年度中	チームオレンジを立ち上げ、現在チーム員は11名で活動。認知症当事者やその家族への支援、認知症カフェ活動に参加した。	◎	チームオレンジの活動場面が限られているため体制整備や認知症について定期的に学ぶ機会を確保することが課題。

第9期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

保険者名	第９期介護保険事業計画に記載の内容				R6年度（年度末実績）		
	区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己評価	課題と対応策
空知中部広域連合	②給付適正化	介護給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が真に必要とするサービスを、事業者が適切に提供できるようにするため、北海道では「第６期介護給付適正化計画」を策定し、保険者と一体となって取り組む方針としており、当連合としても重点事項として位置付けられている5項目について実施していく。	認定調査状況の適正化	調査票全件点検の実施	調査票全件である1,008件の点検を実施し、テキストに基づき、不整合がないか確認し、整合性のある認定調査となるよう認定調査員への指導を行った。	◎	調査事項と特記事項の整合性が図られていない調査票が見受けられることから、今後も認定調査の平準化をはかるため、調査員に対する指導を継続していく。
	②給付適正化		ケアプランの点検	隔年訪問実施	４事業所計8件について、自立支援に資する適切なケアプランであるか等に着目し、ケアプラン点検を行った。	◎	利用者の自立支援に資する適切なプランであるか等に着目し実施しており、今後も継続していく。
	②給付適正化		住宅改修及び福祉用具購入の点検	申請書類の全件点検、必要に応じた現地確認の実施	住宅改修及び福祉用具購入の申請時に全件点検を行った。また、適切な福祉用具等が選定されるようケアプラン点検時に確認を行った。	◎	不適合な改修の申請の場合は、申請者やケアマネジャーに制度を説明し理解を図っており、今後も継続していく。また、ケアプラン点検時にも確認を行っていく。
	②給付適正化		医療情報との突合及び縦覧点検	毎月点検実施	国保連合会に委託し、帳票をもとに点検実施した。	◎	国保連合会への委託と国保連合会帳票を使用した点検を実施しており、今後も継続していく。